



# エール!



学校はたくさんの方々を支えられています。各家庭や保護者のみなさんをはじめ、県や市の様々な部署や教育委員会の先生方はもちろん、地域のいろいろな組織のみなさん、委員さんや管理人さん、近隣のみなさん、卒業生や教員 OB のみなさんなど、あらためて数え始めれば何十、何百もの方たちに助けられ、見守られているのです。コロナ禍で私たちも苦しいところではありますが、こうして学校を運営できているのは、たくさんの方々が支えてくださっているからこそ感謝したいと思います。

そのような中に、学校評議員のみなさんがいらっしゃいます。教育に関する理解、識見を有する方たちで市教委から委嘱されているみなさんです。入学式や卒業式などの儀式を始め、学校開放日などのおりに様子を見に来てくださいます。また評議員会で学校運営に関して責任をもって意見を述べてくださいます。

先日、第2回学校評議員会(書面開催)が行われ、いろいろなお意見を伺うことができました。生徒のみなさんへの“エール(応援メッセージ)”もいただいたので紹介します。(以下、順不同)

コロナ禍ということで、これまで当たり前に行われていた行事が中止になったり、開催方法を大幅に変えるなどの対応を強いられたりと、思い描いていた中学校生活ではなかったかもしれませんが、この困難を乗り越えるための忍耐力や創意工夫する力を身につけることができたと思います。

今後は「自分にどのようなことがあっても大丈夫だ!」と自信を持っていただきたいと思います。

小澤 宏至 評議員様

コロナ禍にあっても、様々な工夫を凝らして二葉祭を実施され、素晴らしい企画力、実行力、団結力だと感心すると同時に頭が下がりました。これからも、制約をプラスにかえて、たくましく進んでいてください。

北口清掃が徐々に実施されたと伺いました。コロナ後、地域での活動に、また参加していただきたいと思います。

坂田 成子 評議員様

なかなか友人とお話する時間も無く、またマスクがあることで笑顔があふれる機会もないかもしれません。

そんなときでも自分らしさを大事にし、何か楽しいことを探して生活してほしいと思います。

溝田 裕己 評議員様

コロナ禍が長引き、集団生活も大変なことと思います。

人と人の関係性を築いていくのが難しい時代になりました。

そんな中、今まで以上に自分を大切に、そして自分のまわりの人を大切にして、人とのつながり方を考えていってほしいと願います。

上原 絵美子 評議員様

ところで「北東中応援歌」を知っていますか？ 応援団がいつも披露してくれる、あの曲です。

応援歌

宮川数之助 作詞  
宮崎和男 作曲

♩=92 元気に力強く

どお ぐしらねーの はく-せつを まな  
びのにおーの と-も-と-し-て え

い ちを み がく ほくと-うーの こ  
え -こだま して ちはお-どる

一 遠く白根の 白雪を  
学びの庭の 友として  
英知を磨く 北東の  
声こだまして 血はおどる

二 夢見の山に 映えてたつ  
三層桜を 仰ぎつつ  
きたえしわれら 北東に  
栄冠今ぞ 涙あり

三 二葉もゆかし せんだんの  
大旗のもとに 集いたる  
力あふれし 北東の  
ああ昇天の 意気みでり

応援歌は、これまで59回に渡って卒業していった先輩達からの  
エールです!!



# 分かれていても心はひとつ!



《マンガでメッセージ》

分散登校が始まったのは1月26日(水)のことでした。対応は2月27日(日)まで再延長となり、1ヶ月の長丁場となってしまいました。当たり前だった日常になかなか戻れないもどかしさや苛立ちを抱えながらも、何とかここまで学校を運営してこられたのは生徒のみなさんやご家庭、地域や関係者のみなさんが状況を理解し、協力してくださったおかげと感謝せずにはおれません。

この間、2月3日からはリモート授業の試行が始まり、14日から3年生は全員が登校し分割授業を行ってきました。再延長となった22日からは1,2年生も分割授業がスタートしました。教室も視聴覚室、生徒会室、学習室や学年職員室、更衣室、被服室などを大急ぎで準備し、教師も校長、教頭をはじめフル稼働で学習がきちんと保障できるよう体制を整えています。

分散登校中は生徒同士の気持ちが離れてしまわないよう、それぞれのクラスが工夫をしながら取り組んでいました。



集団づくり、絆づくりは学校でこそ結実するという強い意識をもって、これからもがんばっていきます!

## ★☆☆ 三年生に贈る ☆☆☆

生徒会が新しい一歩を踏み出したのは、まだ冬季休業中の1月5日(水)でした。この日、1,2年生の執行部メンバーはリーダー研修会を開き、リーダーとしての心構えや結束を確認しながら、3月4日(金)に予定する「三年生に贈る会」の内容についても話し合いました。そして3学期がスタートして各学級の取り組みが本格的になろうとしていましたが、そんな矢先に分散登校となり、諸活動が思うに任せない状況となってしまいました。しかしそんな中でも生徒達は少しずつ歩みを進めてきました。

現在、生徒玄関や3Fフロアに思いのこもった装飾作品が展示されています。3年生が安心して卒業していけるよう、1,2年生は一人ひとり、感謝や応援の気持ちを伝えようと装飾づくりや記念品づくりに取り組んできました。

三贈会のテーマは“はばたけ 北東の風に乗って”です。1,2年生の起こす“風”に乗って3年生は大きく羽ばたいてほしいと思います!



## 北京オリンピックから



R3年度はオリンピックイヤーでした。1年間に夏、冬の大会が両方開かれることは、今後起きないのではないのでしょうか。

オリンピックは4年に1度の大会で、世界中で注目もするし、アスリートはこれに向けて全身全霊で挑みます。人生をかけた大勝負の舞台です。だからそこに感動が生まれ、学びを得ることができます。

この北京オリンピックでも、いくつかの心に残るシーンや考えさせられる言葉の数々がありました。

例えば、スピードスケートの高木美帆選手の努力と強さ、ジャンプの高梨沙羅選手のつまづきと周囲からの励ましの言葉、スノーボードハーフパイプの平野歩夢選手のガッツ、そしてメダリスト達が試合後に見せた、たくさんの爽やかな笑顔…。IOCや大会のあり方、ルールや審判の判定などの話題でも関心を集めました。

チームや仲間との絆を感じる場面もいくつもありました。高木菜那選手がパシュートでのゴール前で転倒したとき、真っ先に「がんばれー」と大きな声で励ましたリザーブの押切美沙紀選手の存在。格好つけず、がむしゃらに喜怒哀楽を出して楽しもうと団結したカーリング、ロソラーレの選手達も印象に残りました。

フィギュア4位に終わった羽生結弦選手が「命がけて練習し、4回転アクセルに挑戦した自分を誇りに思う。」「みんな生活の中で何かしら挑戦しているんだと思う。それが生きることだと思う。明日の自分が今日を見たときに胸を張っていられるようにこれからも過ごしていきたい。」と試合後に語ったのも心に残りました。『自分も何かに全力で向き合いたい! 打ち込みたい!』 そう思った人たちがきっとたくさんいたはず。

金メダリスト高木美帆選手は2年前に「今できること 今しかできないこと 今だからできること しっかりじっくり考えて 私なりにこの道を進んでいきたい」と SNS に記していたそうです。 私たちも次のステージを見据えて、今できることに全力で**挑戦**していきましょう!